

ICT を活用した学習場面

B3 思考を深める学習, C2 共同での意見整理

国語科

4年1組 大西 一豊

単元名：物語新聞を作ろう！ ～〇〇記者のスクープ発見～（4／9）

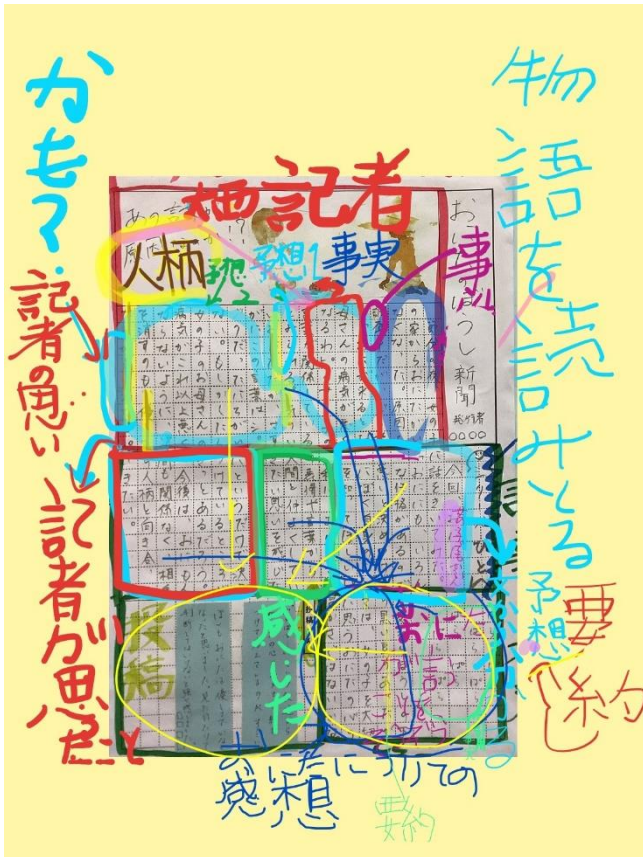
本時のねらい：「ごんぎつね新聞」の構成と内容について、教師が作成した「おにたのぼうし新聞」を分析したり、下書きした際の困りや悩みについての解決方法をグループや全体で話し合ったりする活動を通して、登場人物の気持ちの変化や性格を場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、理解できるようにする。

評価規準：「ごんぎつね新聞」の構成と内容について、登場人物の気持ちの変化や性格を場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、理解している。【思考・判断・表現等】

指導の流れ

児童の活動（ICT 活用の様子）・ICT 活用のねらいや留意点

1. 発表された困りや悩みを受けて、教師作成の「おにたのぼうし新聞」から構成と内容を分析する。
2. 教師の iPad と大型テレビで「おにたのぼうし新聞」をミラーリングした後、ロイロノートの機能を使って、発表者が書き込みながら発言したり、2人1組（即興的）で1人が話し、もう1人が画面操作や書き込みを行ったりなどしながら、解決方法を話し合う。



・教師が模範的な操作をすることで活用の仕方を示し、児童自らが活用できるように切り替えていく。補足説明や発言の繋がりがある場合も想定し、教師用の iPad を発表では使用する。

3. 話し合いで使用したテキストを全員に送り、分かったことを確認するとともに、今後の学習に生かす。

ICT 活用の効果（困りが解決されたか）

成果：共通の資料の分析結果を伝え合う場合、話す側の伝達と聞く側の理解との間にタイムラグが生じ、説明した部分や考えが伝わりづらい場面が見られた。しかし、共通の資料を大型テレビにアップで写しながら提示し、さらに、考えたことを書き込みながら伝えることで、話す側の説明がよりダイレクトに伝えることができた。また、考えを書き込んだ資料を送って共有したことにより、個人で確認したい時にいつでも見返すことができ、学習への理解も促すことができた。

課題：慣れるまで、書き込みの色や操作等の工夫を指導・支援する必要がある。